



南米につながる子どもたちとの横浜「共生」プロジェクト Yokohama Inclusion Project – Working with Latino Children



差異を超えてみんなが集まる場所の構築

Creating a place where everyone gathers with overcoming differences

横浜には様々なルーツを持った人々が居住しています。横浜国立大学から北西約2.8キロに位置する県営笹山団地は、高齢者や外国にルーツのある方々が多く居住しています。2年間の調査を経て、以下の課題がみえてきました。1) コミュニティに元気がなくなってきたこと、2) 外国にルーツを持つ子どもたちとの共生の困難さ、3) 高齢者の方々の生活の質の保障などです。本プロジェクトチームは、関係者と連携し、地域の方が集える、地域の子どもたちのための場所を設置し、運営することを目的として活動を準備してきました。

春学期は以下のことを実施しました。1) 笹山団地に住む様々なルーツを持った子どもたちへの学習支援を行うため、大和市青少年相談室の方の講義を受講。2) 団地を訪問し、笹山保育園園長、自治会や生活援助員 (LSA)、笹山地区社協、地域ケアプラザ、保土ヶ谷区社協、神奈川県他多様なアクターへのインタビューの実施。3) 団地の自治会館見学。4) NPOとの協議。これらの活動を通し、外国にルーツがある子どもの学習状況や高齢者の抱える課題などを把握するとともに、自分たちにできることについて議論してきました。

秋学期は以下のことを実施しました。1) 団地の自治会館2階の利用案について構想を練る。2) 団地の一部の空間利用と団地に住む方々との交流イベントについて意見交換、3) NPOとの協議。本年度中に各組織と連携し、笹山団地内に机・椅子等を配置し、居場所を準備します。

2022年度の方針は以下になります。1) 引き続きアクション・リサーチを行い、地域の課題を短期・中期・長期的に分析する。2) 神奈川県や自治会、横浜で活動するNPOと共に外国につながる子どもたちへの学習支援、高齢者の方々との交流を軸としたプロジェクトを実行する。3) 中期・長期的な笹山団地の開発計画に参画する。これらを通し、差異を超えてみんなが集まる場所の構築と総合的なサポートを可能にする空間をつくります。

■学生：12名（氏名：呉一凡、鋪田今日子、満田千紘、吉田涼、江藤克、高階寛之、三島優一、高橋未於、入江ひなた、杉江つくし、本藤理子/ 担当教員：藤掛洋子

■連携・協力：神奈川県公共住宅課、保土ヶ谷区役所、保土ヶ谷区社会福祉協議会、県営笹山団地自治会、笹山保育園、認定・特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金他

■活動地域：保土ヶ谷区域内他